

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末 11 月 4 日の日足終値時点(NY 時間午後 5 時)での判断です。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

そして、トレード戦略の解説は、YouTube で配信している「実践トレード解説」

をご参考にしてください。様々な相場解説を無料で視聴出来ます。

「マーフィーFX」YouTube チャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

■ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

<<日足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。今後、遅行スパンが陰転しないかぎり、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと読む。

<<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

■ユーロドル

<<週足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となるが、遅行スパンが陽転しないかぎり、

センターラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。
また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。
尚、終値が-2σラインを下回るまでは、-1σラインから-2σラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスとも読む。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

<<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、最終ターゲットである+2σラインにほぼ到達。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。

尚、赤色スパン陰転、及び、売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯継続中。

<<4時間足>>

調整反騰局面の最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインにほぼ到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、
等々。

また、終値が $+1\sigma$ ラインを下回るとレンジ局面入りする可能性が高まる。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、

最終ターゲットである+2σラインにほぼ到達済み。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

■ポンドドル

<<週足>>

調整反騰局面。

終値が-1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となるが、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が-2σラインを下回るまでは、-1σラインから-2σラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスとも読む。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、

等々。

<<4時間足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となるが、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が -2σ ラインを下回るまでは、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスとも読む。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

■ユーロ円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

尚、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスとも読む。

<<4時間足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面となっている。今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、+1 σ ラインから+2 σ ラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

■豪ドル円

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、売リシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中だが、最終ターゲットである+2σラインには既に到達済み。

<<4時間足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面となっている。今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、+1σラインから+2σラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。

尚、売リシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中だが、最終ターゲットである+2σラインに接近中。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

■ポンド円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。

<<日足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回って以降、-2σラインを目指す本格的な調整反落局面

となっている。今後、遅行スパンが陰転しないかぎり、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと読む。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<4 時間足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となるが、遅行スパンが陽転しないかぎり、

センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が -2σ ラインを下回るまでは、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスとも読む。

<<1 時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、

スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。

また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

◆尚、上記内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」

(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)からの一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」

(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。

(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。
以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

以上です。